

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2022年 2月 5日

事業所名 こどもサポート教室「きりり」近江八幡駅前校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		イベントなど人数が増える際には母子分離などを行っている。	今後各スペースの配分や教室の環境整備を行うなどの対応を考えていく。
	②	職員の配置数は適切である	○		支援後の振り返り時に、担当職員以外の職員が関わり、職員全員で全利用者様に関わる機会を持っている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		個々に応じた環境設定を都度行っている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○	週1回のミーティング時に話合いの場は持っているが、改善を進めるところまでは出来ていない。	話合いの課題を明確にするなどの対策を考える。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○	アンケートの集約で終わっており、ニーズ把握までは出来ていない。	ミーティングを持つなどして改善をしていく
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		支援の関係や感染症対策なども考え、分散して研修が受けられるようにしている。	
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している		○	空き時間を使って行っているが十分が時間の確保はできていない。	計画的に行えるように手立てを考えていく
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			

の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		2人体制の担当は情報共有し立案している。また小集団では全職員で立案している	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		集団活動の支援計画は立てられていない場合もあるが、状況に応じた実践は行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		時間のある時やミーティング時には行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		次の日やミーティング時には行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
関係機関や保護者との連携	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している		○	合間を使って行うこともあるが不十分などところがある	定期的に行えるように視覚化を行っていく。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管だけでなく、可能な限り担当指導員も参加し、児童の現状を話してもらっている。また相談支援事業所へ適宜連絡をするなどして連携を図っている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○	保護者様より学校の様子をお聞きすることはあるが、不十分などところがある	学校連携等も行っていくように手立てを考えていく。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	医療ケアの対象児はいないが、持病などを持っている児童への対応について緊急カードを作成して。主治医との連携は取れていない	緊急時にすぐに対応できるように、フローチャートのようなものを作成しいざというときに対応できるようにしていく。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			医療ケアの対象児はいないが、持病などを持っている児童への対応について緊急カードを作成して。主治医との連携は取れていない	緊急時にすぐに対応できるように、フローチャートのようなものを作成しいざというときに対応できるようにしていく。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者様を通じて支援見学等へ来ていただいたり、園での様子を見学したりした。	ケース会議などにも参加できるように取れる手立てを考える。

	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ケース会議などに参加をして情報共有を行っている。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		月1回の報告書の提出や適宜連絡をとるなどして情報の共有を行っている。	
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		機会があれば、利用者様へも通知を行い周知していきたい。
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		事業所連携に参加した事はある。	参加できる機会があれば行えるように検討していく。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		フィードバック時などを使って個々に行っている	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		○	小集団の際にお話しをすることはある。	保護者様のニーズに合わせるなど内容の精査を行っている。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的ではないが、必要に応じて声掛けを行っている	
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		不定期開催 参加者が固定しているため、広報活動等を行い広く周知を行っている。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報はないが、チラシやラインで連絡を流している。	
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	○		児童や保護者様から見えないように個人情報のある場所から離れる際には、パソコンを閉じるなど配慮している。	
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	テナントの管理者への共有は行っている。	ブログでの発信や保護者様を通じてなど周知方法を検討する。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		対象児はいないが、個別支援計画等に掲載をしている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2022年 2月 5日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」近江八幡駅前校

保護者等数（児童数）：19 回収数： 割合： 94 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	9	9				
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	15	1		2		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	15	3				
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	16	1		1	寒い	暖房の温度を上げ、加湿も行い換気を行っていく
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	18					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18				グループの時はねらいや目指す所を説明してもらいとても分かりやすい。	引き続きグループ活動の際には、説明をおこなっていく。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17	1				
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	16	1		1		
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	7	4	4		
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	18					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	18					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	11			7		

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15	1	1	1		
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	2	1	1		
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	2	3	6		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	15	2		1		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15	1		2		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	10	1		7		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	13	2		3		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	10	2		6		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	8	2	1	7		
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	14	2		2	・とても楽しみにしている、個別もグループもそれぞれの良さがある楽しい時間です。 ・その日の体調による	・お子様のお気持ちに寄り添って関わっていく。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	12	2		3		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。